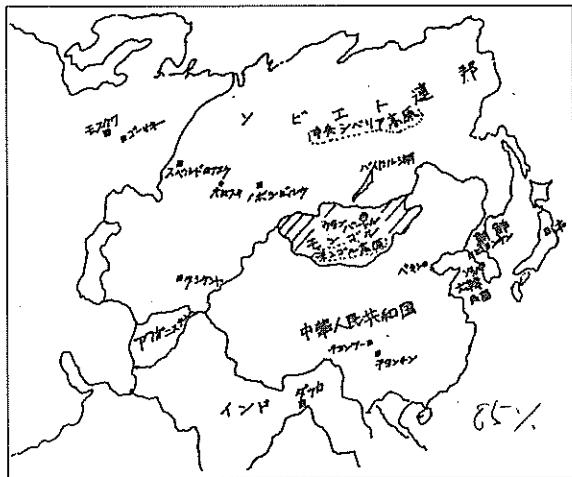


岩手の医報

平成 7 年 4 月 No48
編集 発行
岩手郡医師会
題字 栗石町高橋孝先生



写真は、モンゴルの民族衣装を来て悦に入る栗原耿先生。(左) とモンゴルの位置図

3月11日（土）行われた郡医師会通常総会で講演された県予防医学協会の栗原耿先生の「モンゴルを旅して」の貴重なお話しの中で、暑い最中の8月の旅でしたが、日本とモンゴルとの国際交流の支援、協力を手伝って、何とも清らかな心暖まるお話しでした。

（内容の一部は10～11ページを参照のこと。）

目 次

「モンゴルを旅して」	栗原耿先生	1	特別講演(1)「古代の医の願文」 三浦新也先生	9～10
岩手郡医師会通常総会			(2)「モンゴルを旅して」 栗原耿先生	10～11
会長挨拶		2～3	平成6年度岩手県民健康講座 上原充郎	12
報告－総務・学校医・産業医・福祉			第7回岩手郡地区学校保健・安全・給食研究大会 上原充郎	13
広報・健康教育		3～7	「おらほの先生」 栗石町 谷藤内科医院の巻	14
平成7年度郡医師会事業計画		7	随想「たにいそぎ」 高橋孝	15
平成7年度一般会計予算書		7～8	岩手郡医師会役員会	16
平成7年度休祭日当番医予算書		8	編集後記	16

岩手郡医師会通常総会



日時：

平成7年3月11日(土)午後3:00

場所：

盛岡グランドホテル

1. 開会の言葉
2. 物故会員への黙祷
3. 資格確認
4. 議事録署名人選出
5. 会長挨拶
6. 報告事項
 - 1) 総務
 - 2) 保険
 - 3) 学校医
 - 4) 産業医
 - 5) 福祉
 - 6) 労災
 - 7) 広報
 - 8) 健康教育
 - 9) 勤務医
 - 10) 医師連盟
 - 11) その他
7. 議事
 - 1) 平成7年度岩手郡医師会事業計画

[会長挨拶]



高橋会長

平成7年の初春を迎え、会員の先生方に心からお慶びを申し上げます。

常々、先生方には医師会活動にご理解を賜りご支援協力いただいておりますことに、厚くお礼申し上げます。

この一年を振り返ってみると、まさに激動の一年だったといつても過言ではないと思います。

殊に政治の混迷は著しく、6月には非自民政権に変わって、自民・社会・さきがけの連合による政権が誕生し、一昨年の55年体制崩壊後ますます混迷の度を深めております。経済面ではまだ景気回復の兆しがあらわれず、

円高も進み、医療費抑制策は一向に緩和されそうにない状態です。

この様な政治経済情勢のもと、診療報酬は4月と10月の2回にわたり改定がありました。しかし、給食費の一部負担導入や我々医師の裁量権をおかしかねない薬剤(ビタミン、消炎鎮痛剤等)の使用制限などをふくんでおり、手放しで喜べる改定ではありません。医療における医師の主体性が失われるのではないかと大いに懸念されるところであります。

1月17日に発生した阪神大震災・予想もしなかった大震災から一ヶ月半を経過した。亡くなられた方々のご冥福を祈るとともに、被災した方々の一日も早い復興を願ってやみません。

最近、医師過剰問題が取り沙汰されているようあります。

必要な医師数というのは、対人口比だけで

簡単に割り出せるものではない。我々郡部で診療にあたっている者にとっては、医師過剰とは都會の出来事としか思えず、医師過剰を叫ぶ前に、山村などの僻地医療が保証されるような対策を提起することが先決問題である。

ニューゴールドプランの中で在宅医療の推進がある以上、またインフォームドコンセントが重視されつつある現在、患者一人当たりの受診時間の延長も余儀なくされており、医師数削減をめぐる手順には慎重を期すべきである。その後、看護職員を始め、OT・PTなどのマンパワー養成充足の問題、第3次医療法改正の問題ほか難問山積の状態であります。

いずれも行政との協力が不可欠であります。さらに政治情勢とのからみも影響するところであります。殊に混迷不透明な政治情勢にあっては、すべての政党をターゲットにしなければならないので、容易なことではありません。地域における地道な活動も大きな力を發揮することになると思います。

また、今年は選挙の年、統一地方選挙が4月、参議院選挙や市町村議会議員選挙が予定されており、小選挙区比例代表による衆議院選挙もあると思います。医師会のために役に立つ人、協力してくれる人、保健・医療・福祉に理解のある方々を選びたいものです。

医師連盟活動への関心を大いに高め実践することをお願いします。

これからは、地域保健法制定の理念にもありますように、地域における対応が最重点になつてまいります。郡市医師会の活躍の場も拡がってくることは明らかであります。会員の先生方には、常々発想の転換から行動の転換をお願いして参りましたが、今年こそは一層のご理解を頂き、地域保健医療の推進にご尽力賜りますようお願いいたします。

明るさに向かう一年になることを期待します。

【報告】

◇総務

担当 及川 忠人

〈会務事業報告〉

1) 平成6年度行事報告

4月6日 郡医理事会（ホテルニューカリーナ）

- | | |
|--------|--------------------------|
| 5月29日 | 郡医師会長杯ゴルフ大会（安比高原G・C） |
| 6月1日 | 郡医役員会（ホテルロイヤル盛岡） |
| 6月11日 | 郡医通常総会（ホテルアネックス） |
| 6月18日 | 県医師会代議員会（県医師会館） |
| 6月26日 | 県医春季総会（花巻市医師会） |
| 7月23日 | 郡医役員会（県医師会館） |
| 8月28日 | 郡医親睦野球大会（遠野市医師会担当） |
| 9月15日 | 郡医師会長杯ゴルフ大会（南部富士C・C） |
| 9月17日 | 東北医師会連合会（仙台市） |
| 11月5日 | 産業研修会（玉山村アルプス電気） |
| 11月27日 | 県医秋季総会（県医師会館） |
| 12月3日 | 郡医忘年会、特別講演会、受賞祝賀会（ホテル大観） |

平成7年

- | | |
|-------|-------------------------------|
| 1月7日 | 県医、県歯、県薬剤師会合同新年交賀会（盛岡グランドホテル） |
| 2月16日 | 郡医役員会（千鳥） |
| 2月25日 | 県医代議員会、災害救護講演会（県医師会館） |
| 3月11日 | 郡医通常総会（盛岡グランドホテル） |

2) 地域医療関係報告等

平成6年

- | | |
|------------|--|
| 10月27日 | (木) 平成6年度第一回生涯教育臨床講座
「救急医療における問題点－各医療施設からの提言」 |
| 10月24日-26日 | 応急救護処置指導者講習会（国立青年の家） |

平成7年

- | | |
|-------|--|
| 2月22日 | (水) 平成6年度第一回生涯教育臨床講座
「盛岡保健医療圏における病診連携とかかりつけ医のあり方」 |
|-------|--|

3) 平成7年3月11日通常総会での抱負と活動目標

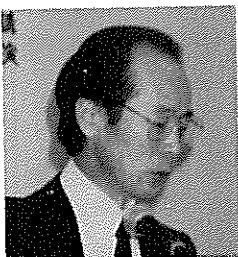
- 1 本年1月17日に起った兵庫県南部地震（阪神大震災）における様々な危機管理、災害時救急救護体制について岩手県の災害時体制の見直しの方向を参考にしつつ、岩手郡医師会における各地域での連絡網、緊急時の連絡体制等の具体策を検討し「岩手県医師会災害事故救急医療対

策要綱」の見直しをして参りたい。

特に広域に亘る緊急時連絡網の整備を通信手段の一つとしてアマチュア無線を基軸に具体策を検討して参りたい。

- 2 各地域での検診事業の現状とマンパワー等の問題点を明確にしたい。
- 3 病診連携、診診連携そして地域中核病院と中小病院との連携を、昨今、めまぐるしい地域医療の現状と様々な変革点・問題点をふまえて「その有るべき姿」を提言したい。
- 4 岩手郡8か町村の一次二次救急医療体制の現状と問題点を検討し、地域医療の流れを包括的に据えて、予防医学、救急医療、診断・治療そしてリハビリテーションに至るながれの「あるべき方向」を模索したい。
- 5 「かかりつけ医」と地域中核中小病院の連携の現状と問題点について検討し、併せて在宅医療・在宅訪問ケア・訪問リハビリテーションについての医療保健福祉との地域連携システムとの関わりと進め方について検討して参りたい。

◇学校医



上原充郎先生

担当 上原充郎
第12回岩手県学校保健・学校医大会
表記大会は平成7年
1月22日(日)、岩手
県医師会館で開催され
た(プログラムは別記
の通り)。一般演題は12
題が発表され、昼食時
に幹事会(この内容に

ついては別に報告します。)が行われた。午後
後の部の最初に総会が行われ、幹事会で検討
された全ての項目が承認された。

総会後に今回が最初の試みと思われるシンポジウム「地域における小児成人病対策とその問題点」というテーマで7名のシンポジストの発表により行われた。私もシンポジストの一人として「岩手郡における学童成人病検診の実態」として平成6年12月に岩手郡内の小中学校に対してアンケート調査を行った結

果を発表致しました。

一般演題もシンポジウムも大変立派な研究発表であるが、この大会に参加して毎年感じることは参加者がとても少ないとということです。特に学校関係者が少ないので全く残念でならない。医師が熱心に乳幼児や学童の健康に真剣に取り組んでいることが現場の教師にはなかなか理解されていないように思えてならない。もっともっと教職員(特に校長)の参加を希望して報告と致します。

【プログラム】

・一般演題(演題名省略 いわて医報3月号

No526号 参照)

I 貧血検診	1題
II 眼科関係	4題
III 教職員検診	2題
IV 耳鼻科検診	3題
V その他	2題

・シンポジウム

テーマ『地域における小児成人病対策とその問題点』

座長 岩手県医師会学校医部会小児成人病予防対策委員会委員長
盛岡赤十字病院第一小児科部長 寺井泰彦
座長 岩手県医師会学校医部会小児成人病予防対策委員会委員
岩手医科大学公衆衛生学講座
助教授 立身政信

1. 平成5年度岩手県児童生徒の成人病危険因子について
岩手県医師会学校医部会小児成人病予防対策委員会
小川英治他
2. 盛岡市立小・中学校小児成人病検診の状況について
(特に中学1年生の血清脂質と肥満度の関係)
盛岡市医師会学校医部会小児成人病対策委員会
森田友明
3. 当院における『肥満サマーキャンプ』の取り組みとその効果について
もりおかこども病院副院長 米沢俊一
4. 岩手郡における学童成人病検診の実態
岩手郡医師会学校医部会 上原充郎
5. 釜石地域に於ける小児成人病対策について
釜石医師会学校保健担当理事 岩井利男
6. 大船渡市で実施している小児成人病予防検診を含めた児童生徒の健康管理システム

について

気仙医師会 細井 宏益

7. 東山町における学童成人病予防健診結果について（1991年度以降の経過まとめてみて）

東山町学校保健会 村上麗子他

特別講演

座長 石川 育成

『健康推進校現地調査からみた学校保健の現状と課題』

岩手大学教育学部教授 高橋 哲雄先生

平成6年度第2回学校医部会幹事会報告

郡医師会理事 上原 充郎

表記部会は、平成7年1月22日、県医師会館において開催されたので、その要点を報告致します。

石川県医師会長の挨拶の後、平成6年度の活動状況の報告が吉田新二理事により行われました。次に平成7年度事業計画が協議されました。この中で例年と異なる点は別表にあるとうり平成7年8月20日岩手県において、第7回東北学校保健・学校医大会が開催されることであり、従って第13回岩手県学校保健・学校医大会は平成7年度には実施されないことになりました。

もう一点は小児成人病の発生（特に肥満）が低年令化してきていることから、各郡市医師会の中に幼稚園・保育園部会を設立してこれ等の保健活動をより一層推進してほしいとのことでした。

平成7年度学校保健事業計画

(H. 7. 1. 22)

- (1) 第7回東北学校保健・学校医大会の開催
(H. 7. 8. 20於岩手県)
- (2) 各種検診活動の推進
- (3) 小児成人病予防対策の展開
- (4) 児童生徒の今日的問題の検討
(精神衛生、思春期、スポーツ等)
- (5) 幼稚園保育園保健活動の推進
- (6) 学校保健関係団体との連携

次に平成7年度岩手郡学校保健活動テーマは別表の通り決定致しました。1～5は例年どおりですが、6、7は新たに追加したテーマですが、これは平成6年12月に岩手郡内

の小中学校86校について小児成人病検診に対する学校での考え方等をアンケート調査した結果、6、7の点が大切と考えられたものです。尚、このアンケート調査の結果を必要な方は上原まで連絡下さればお送り致します。

平成7年度岩手郡学校保健活動テーマ

1. 小1・中1・高1の循環器調査
2. 貧血検診の推進
3. 町村毎の校長、保健主事、養護教諭、学校医との学校保健懇談会の開催
4. 岩手郡地区学校保健会設立に伴い各町村教育委員会、町村学校保健会との合同での学校保健事業の推進
5. 町村毎に小児成人病検診と予防活動の推進
(以上継続テーマ)
6. 小児成人病検診の必要性の徹底
7. 小児成人病検診の事後指導のあり方の研究
(6, 7は新しいテーマ)

◇産業医



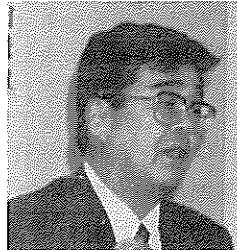
担当 八角正司
第50回産業医部会幹事会は、平成7年1月21日午後3時より岩手県医師会館に於いて開催されました。

八角正司先生 在、岩手県内の認定産業医は428名。岩手郡医師会の認定産業医は24名です。

第1回目の認定産業医は平成7年度に更新しなければならないのですが、岩手郡医師会では7名の先生方が該当します。自分の持ち点を再確認される様お願いします。

不明の点がありましたら、県医師会事務局の小笠原さんにお問い合わせ下さい。

◇福祉



担当 坂井博毅
平成6年7月9日
(土) 岩手県医師会館に於て郡市医師会福祉担当理事会が開催されました。石川育成県医師会長先生のご挨拶に始まり、福祉活動状況、

坂井博毅先生

日医年金並びに各種保険加入状況、弔慰金及び入院見舞金の支払状況、日曜人間ドックの利用状況、第1グループ保険会の規約改定、福祉関連特別会計、その他について事務局から報告、説明がなされました。引き続き福祉制度の見直しと各種大会についての協議を行なった。以下その報告と今年度の各種大会の予定について報告する。

医師並びにその家族と職員のための福祉事業はどうあるべきか大変難しい問題である。これまで試行錯誤しながら実践してきましたが、充分な活動とは言い難いのが現状であります。県医師会レベルでの事業もさることながら、特に郡医師会単位の活動が不十分のように思われます。

高橋会長先生はこうした現状に思いを致し、数年前より医師と家族ならびに職員の岩手山登山、ボーリング大会、ゴルフ愛好家による会長杯争奪ゴルフ大会などを計画実践してきましたが、残念ながら参加者が少なく、満足のいくものではありませんでした。今後こうした企画にふるってご参加いただき、会員の先生方に会を盛り上げて下さるよう切にお願いする次第です。

第46回県医師会親睦野球大会は8月28日、遠野市医師会が担当で、遠野市営球場を主会場にして8会場で盛大に開催されました。先に報告の通り我が岩手郡医師会も大変健闘致しました。第47回県医師会親睦野球大会は平成7年8月27日、紫波郡医師会担当で矢巾町営球場を中心を開催される予定です。

第28回県医師会親善ゴルフ大会は平成6年9月11日、北上医師会の担当で栗駒ゴルフクラブでクリニックマガジン主催の日本医師選手権予選も兼ねて開催されました。残念ながら我が岩手郡医師会は団体戦入賞が出来ませんでした。今年度の第29回県医師会親善ゴルフ大会は平成7年9月10日、二戸市医師会、久慈市医師会そしてわが岩手郡医師会担当で軽米ライベックスカントリークラブで開催される予定です。尚クリニックマガジン主催の日本医師選手権予選は6月か7月頃に別途開催予定です。また春秋2回開催されております会長杯争奪岩手郡医師会親善ゴルフ大会は今年も行う予定ですので会員の先生方多数の参加を期待しております。

第23回岩手医家美術展は平成6年11月25日から27日の3日間岩手県医師会館で開催されました。今年度は平成7年11月24日から26日の3日間同じ岩手県医師会館で開催予定で

す。

一日人間ドックは予防医学協会本所で4回、県南センターで2回の合計6回行なわれましたが岩手郡医師会からの参加者はきわめて悪く、過去2年間に6名しか受診していないようです。医師国保に加入の方は全て無料ですのでご利用下さい。

弔慰金及び入院見舞金給付については不幸にして会員の先生が亡くなられた場合は30万円の弔慰金が支払われます。また入院加療を受けた場合も見舞金が医師会から出ますので県医師会にお知らせ下さい。

日医年金及び各種保険の加入状況はA会員はおおむね良好ですがB及びC会員の先生方の加入が少ないようです。特に1億円迄保証される日本医師会医師賠償保険へのB会員の先生方はわずかに106名(11.9%)の方々だけとなっております。医療訴訟の多い昨今より多くの先生方の加入が望れます。

グループ保険は第1、第2の2つのグループ保険がありますが、第1グループ保険に加入されていた先生方の多くがご高齢となり、初期の約束が不可能となり、ネーミングは変わりませんが、機能は第2グループ保険と全く同じものになりました。高額の保険を希望される先生方は2つの保険に加入なさって下さい。

以上福祉担当からの報告と致します。

◇広報 健康教育

担当 鳴 信

日頃「岩手郡医報」発行に際し、皆様の御協力を感謝申し上げます。

現代社会において、情報はテレビ、週刊誌、新聞、日刊誌、医薬情報担当者などあらゆる方面からいや応なしにもたらされる今日この頃であり、一週間もすればあつという間に机の上に山積みとなることも稀ではありません。

〈広報としての役割〉

県医師会の広報・健康教育合同会議が6月11日に行われました。

県医師会のいわて医報への協力はもちろんのこと、今まで通り行いますが、わが医師会の情報は行事がある毎に、即ち年に3~4回の発行にとどまっていますが、月々の発行が必要とは思われますが、速報性の面からは良としても、仲々大変な作業でもあり、記録性の面から報告、行事予定など2~3ヶ月に1回になっているのが現状です。

何分にも皆様からの原稿次第です。今後と

も原稿依頼をお願いしたいと考えておりますので、よろしく御協力の程お願いします。

文章、記事だけでなく、表紙の写真、絵画、書字、イラストなど多くの趣味をおもちの先生方の積極的な参加を歓迎します。

本年度健康教育部門は、広報部会と合同で平成6年6月11日県医師会館において行われ、メインテーマとして「くらしと健康」共通テーマとしては、「心肺蘇生法」が取り上げられ、当医師会は盛岡保健所と岩手保健所管内であり、それぞれの管内において「県民

自身による心肺蘇生法」普及事業指導養成講習会が6月、7月に行われた。9月の救急週間にちなんで行われた救急医療学術講演会（平成6年9月8日）においても心肺蘇生の実際として実演も行われた。

また、本年度県民健康講座は、零石町において平成7年1月25日、2月1日、2月8日の3日間行われた。

地元の先生方を中心として、毎回150名前後の受講者が集まり盛会であった。

平成7年度は岩手町の予定である。

[議事]

1) 平成7年度岩手郡医師会事業計画

21世紀に向けた医療の動向は、世界的な規模で変革しようとしている。疾病構造の変化、低出生率、急速な高齢化とマイナス要因が多く、プラス要因はほとんど見当たらない。国民医療体制の創造に向かって、保険・医療・福祉の総合的展開は必要不可欠である。

一方、政局は混乱、経済はやや明るい兆しをみせつつあるものの、医療機関の経営は危機的状況にあり、地域住民への良質な医療提供は困難を極める事態が憂慮される。

このことは医師会が直面する大きな課題であり、各領域の諸施策に対して積極的に参画し、地域の医療を守るために総意を結集しな

ければならない。そのためには、県・郡市医師会の一層の連携と会員一人ひとりの努力が必要である。

次の事項を重点事業とする。

1. 医道による済世
2. 県医師会の事業への全面協力
3. 医政の強化
4. 有効なる地域医療活動の展開
5. 会員福祉の充実
6. 保険診療の適正化
7. 生涯教育の推進
8. 医療経営の安定への努力
9. 広報活動の積極的展開
10. 地域住民の健康教育の充実

2) 平成7年度一般会計予算書

自. 平成7年4月1日

社団法人岩手郡医師会

至. 平成8年3月31日

単位：円

《1. 収入の部》

科 目	金 額	摘要	要
繰 越 金	5,000,000	前年度より繰越	
会 費	4,805,000	A会員 41人 3,895,000 (@95,000×41人) B会員 29人 (免除3人) 910,000 (@35,000×26人)	
補 助 金	505,000	県民健康講座 420,000 地域医療 30,000 学校医 55,000	
雜 収 入	85,000	預金利息・総会参加費他	
合 計	10,395,000		

《2. 支出の部》

単位：円

科 目	金 額	摘要	要
【事 業 費】	(9,295,000)		
会 議 費	2,825,000	総会2回 1,200,000 役員会 8回 1,000,000 総務会 8回 400,000 監事会 1回 100,000 県医総会費 1回 125,000	

生涯教育費	1,500,000	医学講演会・懇談会 学校医研修会 スポーツ医学研修会 生涯教育連絡会 地域医療研修会 予備費	800,000 200,000 100,000 100,000 200,000 100,000
地域保健	700,000	各町村の地域保健懇談会 他都市との懇談会	600,000 100,000
広報発行費	870,000	印刷費 6回 発送費 6回 編集会議費 雑費	660,000 80,000 70,000 60,000
旅費交通費	1,300,000		
交際費	1,000,000		
慶弔見舞金	500,000		
広告費	200,000		
雑費	200,000		
予備費	200,000		
[事務費]	(1,100,000)		
事務費	1,100,000	事務連絡費 通信費 消耗品費 印刷費 リース料 事務処理費 雑費	100,000 250,000 200,000 100,000 230,000 120,000 100,000
合計	10,390,000		

3) 平成7年度休祭日当番医予算書

自. 平成7年4月1日
至. 平成8年3月31日

社団法人岩手郡医師会

《1. 収入の部》

単位：円

科 目	金 额	摘要	要
繰 越 金	6,975,000	前年度より繰越	
補 助 金	3,699,000		
雜 収 入	6,000	預金利息	
合 計	10,680,000		

単位：円

《2. 支出の部》

科 目	金 额	摘要	要
報償費	4,200,000	健康教育費 救急対策費 県医野球大会 県医ゴルフ大会 郡学校保健会補助金 講演会・合同研修費 厚生対策費	1,400,000 (@20,000×70人) 500,000 600,000 200,000 100,000 900,000 500,000
需 要 費	400,000	会議費 3回 通信費・消耗品費	300,000 100,000
旅費交通費	700,000		
役務費	180,000	印刷費 通信電話料	100,000 80,000
予備費	200,000		
次期繰越金	5,000,000		
合 計	10,680,000		

[特別講演]

「古代の医の願文」

岩手県医師会顧問 三浦 新也 先生

講師演者の三浦新也先生（元県医師会長）が体調を崩し、急拵入院されたため欠席となり、高橋郡医会長がこの日のために用意されていた参考資料について、主なものを解説した。以下資料より抜粋してみます。

人間とは、**A. 医哲学から**

1. 身体は物体である。
2. 生命をもつ物体、即ち生物である。
3. 一人では生きられない。人と人との間に生きる社会的存在。
4. 意識をもつ精神的な存在。
5. 意識だけでなく意志をもつ自主独立の存在、即ち人格を持つ。
6. しかしながら、一人ぼっち死んでゆく、そのことを知る自覺的な存在。

B. 宗教的には**○東洋**

- ・宇宙の命の一粒、自己も他己も一如
- ・四苦八苦
- ・苦なる存在の故に人間悲で包み合う

○西洋

- ・人は神の子、人類愛のもとに共存

(沢潟久敬氏より)

ヒポクラテスの誓

医学の歴史 ロベルト・マルゴツタ著
岩本 淳訳

小アジアの海岸ちかい、ドデカネサス群島のコス島には、今でも一本の大きな、すずかけの木が立っている。

紀元前5世紀のむかし、その木の下で、当時の青年たちが医学の秘伝を受けられたという。そして、仲間や先輩たちと共に、彼らが

次の誓をたてるのが慣例だった。

○私は、医術の神アポロン・アスクレピオス、および、この術にかかるすべての神にかけて誓います。

(神々との約束)

また、あらゆる男神と女神を証人として呼びよせ、私の能力と判断力の及ぶ限り、この誓を守りぬきます。

△私は、この術を授けてくれた人を、両親同様に敬い、生活を共にし、自分の全財産を委託します。その人の息子たちを自分の兄弟同様に考え、もし、彼らがこの術を学びたいというなら、報酬や契約書などは度外視してこれを教えます。（師に対する感謝の義務）私の息子たち、そして医師のおきてにより、誓約を行なった生徒たちは、医師の心得と講義、その他すべての学習を受けさせ、それ以外の人にはこれを許しません。

○私は、能力と判断力の限りをつくし、全力で病人の助けに当たります。この事によって、害を与えたたり、不正を行なったりはいたしません。（病人の福祉に役立つ義務）

○私は、頼まれたにせよ、誰に対しても致死役を与えたりはしません。同様に、女性に堕胎の手段も教えません。（生存権保護の義務）

○私は、純潔で敬けんに、生涯を送り、術を施します。（私生活の清廉潔白の義務）

○私は結石患者に対し切石術を行なわず、これを仕事する人にまかせます。

(自己謙遜の義務)

・どの家に入るのも、病人を助けるためであり、決して被害を与えたりしません。

(医術乱用限界の義務)

○男女を問わず、また自由民か奴隸にかかわらず、自分の地位を乱用して、彼らと情

交にふけるようなことはいたしません。

(患者との交情は重大な過失)

○医術に関する否かにかかわらず、見聞きしたことで、もらすべきでないものは秘密を守り、決して口外いたしません。

(患者の秘守の義務)

西と東の対比

	ヒポクラテスの誓	薬師の願文
背景	代々の医家出身 前460～ (85～109歳)	モデルは駆逐 ネパール地方小国王子 前463～383(80歳)
基本	合理精神と人間愛 (Humanity)	人間苦に向けた人間悲 (Karuna)
動機	神様との約束 ○発心	自分自身との約束 ○発願
姿勢	医人の在り方から 出発	大衆の諸願をすべて 医人自身の本願として
志向	生命の尊厳を基に ○命の救護	救命救貧を超えた ○命の繁栄
実践	科学的具体的医療	包括的な社会福祉

まとめ

- ①第一に年代ですが、日本ではまだ耶馬台國の卑弥呼以前にあたるが、既に今日の社会保障のメニューをほとんど網羅している。
- ②この時代に、早くも具体的に病状、病名まで明記している。
- ③また、今日いわれる保険と医療と福祉とを一体的に見ていく。
- ④しかも、十二大願という薬師の到達目標が、そのまま大衆が求める理想像とよくフィットしている。
- ⑤太古の文献にかくも豊かな概念が既に詰わっている事実も驚きです。

モンゴルを旅して

岩手県予防医学協会常務理事 粟 原 耳



粟原 耳先生

◆出発にあたって
平成2年暮盛岡市遠山病院理事長の遠山先生のところにモンゴル人のナラントヤさんという通訳をしている人から手紙が送られてきて、そ

の内容は、「今、モンゴルは経済的混乱の極にあって、食糧事情等は最悪の状態にあり、特に乳幼児の下痢症による死亡が多く、早急にその対策に取り組みたい。具体的にはモンゴルは昔からラクダと馬の乳には特別な薬効があるといわれ、特に滋養強壮的な働きがあって、子供の下痢症にも使われてきた。それらの動物の乳を利用して粉ミルクやヨーグルト等の乳製品工場を建設したい。

今でもウランバートルには、国営の乳製品

会社はあるが、単なる乳製品ではなく、ガンマーグロブリンやラクトグロブリン、ラクトフェリン、薬草等を加えた下痢症への抵抗力を高めることを考えたものにしたい。」というもので、遠山理事長、知人の会社社長、私と三人で現地視察に行ってみようということになった。日程の調整に入り、8月3日～13日ということに決定。8月4日早朝の成田～北京JAL便（往復ともファーストクラス）にて出発。空港の混雑も別扱い、待合室も飲み食いも無料サービスの別室。出発間際に案内があり、待合室から機内に直行。但し今回は3人のうち1人が出発時間が過ぎても現れないハプニングがあり、この恩典はフイになった。

8月4日JAL便は13時00分北京到着。北京発週一便のモンゴルウランバート行まで北京滞在。

実は私、昭和16年11月満州は内蒙古の生れで、着の身着の儘、母一人、3才の私、5才、6才の兄の3人を連れて引き上げ、それ以来45年振りの生れ故郷中国大陆への帰還である。

◆北京の街

北京の夏は蒸し暑く、晴れているようだが、空は白くかすみがかかっており、風もなく、まとわりつくような暑さである。タクシー（20～30年前のダットサン車）を捕まえ、王府飯店に着いた。飯店というと食い物を想像するが、高級ホテルの意味で、何とか大飯荘というのが食堂です。

高層ビルが林立し、その殆どが高級ホテルで、日本人欧米人の混み合う全くの別世界であり、ホテルでチェックインしたあと、天安門広場、故宮、商店街等を見学した。歩き回っているうちに、気の遠くなるような平坦さ、作りの巨大さ、大まかさ等から、この国に置かれている社会的、経済的混乱が微かに見えてくるようでもあり、北京の街の人混みを“湧き出て来る”と言った人がいますが、まさしくその通りで、蒸し風呂のような暑さの中に人の波が溢れている感じである。

道端にはいろいろな屋台があり、日本でいうサイダー、ラムネの類から焼き鳥、ソーセージ、アイスキャンディー等々が売られていて歩きながらかぶりついています。

その夜は羊のしゃぶしゃぶを食べ、木炭を入れた鉄釜をテーブルに置いてのしゃぶしゃぶで、汗ダラダラの奮戦であった。

◆北京からいよいよモンゴルへ

北京空港の一角、モンゴル航空の待合室にはこれぞモンゴルという雰囲気が漂っており、一目でモンゴル人と解る集団があって、やや暗く沈んだ雰囲気がある。即ち黒っぽい毛皮の帽子、オーバーコート、長靴に身をつつんだ色の黒い精悍な顔つきの男女が腕組みをして黙して立っている。

ウランバートルに着いて（人口40万人の都市）ホテルの客室に入ってびっくり、木

箱の上にせんべい布団二枚といったベット。バスルームには風呂桶と便器はあるが水が出ない。午後8時頃会食のため外に出ると、日は煌々と輝いて日本の夏の午後3時、4時という感じであった。

小児科医の女医アグタンツェツエグさんとその他数名の一族の方々との会食の席上、今回の訪問の本題に入り、モンゴルの経済的現状と乳児死亡率と幼少期死亡率を加えて40%台になることを力説され、薬物栄養強化の乳製品の製造に情熱を燃やしているとのこと。今モンゴルはアメリカを始めとする先進諸国、特に日本からの援助なしにはやっていけないという必死の表情であった。

◆モンゴルの南ゴビ地区視察

翌日は5時起床。6時頃ウランバートル空港からソ連製の中古双発プロペラ軍用機で、南部の南ゴビ地区へと向った。ここにはアグタンツェツエグさんのラクダの牧場があり、酪農事情を視察することになった。

山脈の麓の平原には円形のテント（中国語でパオ、モンゴル人はゲルと呼ぶ）が二つ、三つ見られ、その周辺には数頭の馬、ラクダ、羊、山羊等が点在している。

このゲルは、2～3センチの厚さの羊毛を固めたフェルト地で、木製の骨組みなどは、2～30分で折りたたみ馬車に乗せて4～5日放浪した後、適当な草地が見つかると2～30分で組み立ててこの中で生活することが彼らには習慣となっているようだ。

後日談として、同行の知人の社長さんはモンゴル人民共和国の厚生大臣の要請を受けて大量の医薬品をモンゴルに送り、また遠山先生は盛岡市内企業の援助を受け中古のタンクローリー車とジープ各1台ずつを送ったとのことでした。

（「モンゴル人民共和国を訪ねて」と題して、同氏が平成3年10月号～平成4年2月号まで「健康いわて」に掲載したものの抜粋です。）

平成6年度岩手県民健康講座――零石町にて開催

郡医師会理事 上原充郎



零石町中央公民館

表記講座は零石医療団担当で、零石町中央公民館において実施されたのでご報告致します。

第1日目の開講式には玉田盛岡保健所長、高橋岩手郡医師会長、川口零石町町長の御列席と役場保健課の職員、零石医療団（医科、歯科）の先生方、そして150人以上の町民受講者の参集により盛大に、また厳粛に行われました。

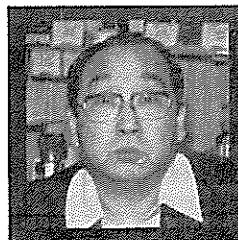
第2日目の篠村達雄先生による“そばにいるから助けたいから心肺蘇生法”零石町の全医師が参加協力して（以前に全員蘇生法を全

員で数回実習しておいた。）参加者を四つのグループに分けて実地指導を行い、全参加者に実習用ダミーを相手に蘇生法を習得してもらいました。

第3日目の最初の講義につづいて閉講式が行われ138名の受講者に終了証書が高橋会長より手渡され各受講者は心なしか顔が輝いているように見えた。

その後会場を移して、盛岡保健所、零石町役場、零石医療団等今回の開催に関係協力していただいた方々により反省会と慰労会が和やかに行われた。

弔辞



岩手郡医師会の会員として、長期に亘り、地域医療に尽瘁され、その功績甚大であった二瓶秀男先生のご葬儀に当り、郡医師会会員一同と共に謹んでご逝去を悼み、ご冥福をお祈り申し上げます。

先生は、昨年以來健康を損なわれ、岩手医科大学付属病院に入院され、病状はご回復に向わっていたとのことでしたが、病魔はついに先生を奪うところとなり、まさに哀悼、痛恨の情に堪えません。

私は去る九日先生の訃報に接し、驚きと悲しみに閉ざされて仕舞いました。

ご靈前にお別れの言葉を申し上げることになり、誠に悲しく残念なことあります。

先生は、昭和二十五年岩手医学専門学校卒業後、宮城県石巻赤十字病院に研修医として、その後宮城県角田市立小川病院に勤務され、昭和三十年八月に松尾診療所に赴任されました。以来平成六年九月までの長期間に亘って、先生は診療の傍ら辺地医療に貢献され、国保事業、学校医をはじめとして、脳卒中予防活動等、住民の皆様が安心して望ましい医療を受けることの出来るような諸条件

を整えることに尽力され、その功績は甚大であったと伺っております。

このような功績により、平成三年国民健康保険関係功績者として厚生大臣表彰を受けられ、引きつづき奉仕に尽瘁しておられました。

私など後輩は、直接先生のご指導、ご助言を得る機会に恵まれませんでしたが、先輩の先生方から、先生の医師としての方を伺いまして深く感銘し、いつかは直接ご指導をいただく機会のあることを期待しておりましたのに、それができなくなりましたことは實に残念なことです。

ご遺族の方々のお悲しみも如何ばかりかとお察し申し、お慰めの言葉もございません。

今や私達は、先生と幽明境を異にし、先生と相まみえることはできなくなりました。

しかし、私達は、先生が築き育てて下さった岩手郡医師会を引き継ぎ、先生の精神を継承して行く覚悟であります。

これが先生のご高恩に報いる第一の道であると思います。

先生、どうぞ私達を見守りながら安らかにお眠り下さるようお祈りし、お別れの言葉といたします。

平成7年2月26日

岩手郡医師会
会長 高橋牧之介

第7回岩手郡地区学校保健・安全・給食研究大会

郡医師会理事 上原充郎

表記大会は、平成7年2月18日(土)14:00～16:45まで、盛岡市アイスアリーナにおいて約70名の会員の参加で開催され、高橋孝会長は不調な体調にもかかわらず参加され、開会のあいさつを御話し下さいました。

内容は別記の通りで、葛巻町学校保健会による「葛巻町における性指導の取り組み」は性教育のむずかしさに加え、エイズ教育にまでテーマを拡げた大変な取り組みでした。ご苦労様です。

岩手町学校保健会による「う歯予防や歯周疾患予防に関する生活習慣の改善について」の研究発表は岩手町全体で5年計画で取り組んでいることの途中経過の発表でした。“8020運動”(80才で20本の歯は自分の本来の歯であるようにという運動)をも含めた大変ためになる研究経過発表でした。

内 容

(1) 研究発表

① 葛巻町学校保健会

テーマ 「葛巻町における性指導の取り組み」
－養護教諭の性指導への関わ
り方はどうあればよいか－

発表者 葛巻町立五日市小学校 養護教諭
青山由美子 先生
葛巻町立小屋瀬中学校 養護教諭
澤口 淳子 先生

② 岩手町学校保健会

テーマ 「う歯予防や歯周疾患予防に関する
生活習慣の改善について」

発表者 岩手町立一方井小学校 養護教諭
荒木 恵美 先生
岩手町立一方井中学校 養護教諭
谷村 純子 先生

(2) 講 義

① 盛岡教育事務所

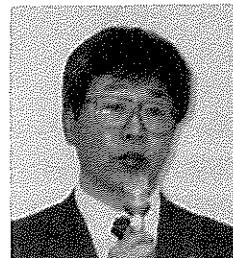
指導主事兼保健体育主事 佐賀 文行 先生
『学校における性教育(エイズ教育)のあり方』

② 沼田歯科クリニック

院長 沼田興志晴 先生
『学校歯科保健について』

(3) 研究協議(座談会)

座長 上原小児科医院 院長 上原 充郎 先生



佐賀文行先生

講義①は、盛岡教育事務所の指導主事兼保健体育主事の佐賀文行先生による「学校における性教育(エイズ教育)のあり方」についてで、指導者的な立場から我々医師や現場の

先生方に“性教育の難しさとあり方”をわかりやすく楽しくお話しをして下さいました。



沼田興志晴先生

講義②は零石町沼田歯科クリニック院長の沼田興志晴先生による「学校歯科保健について」で、毎日の歯科診療を通じて又、学校歯科医活動を通じて大変わかりやすい楽しい現実的な内容でした。

今回で第7回目を迎えたわけですが、この会に参加して感じることは、参加者がとても少ないということです。研究者グループ、講演者は大切なテーマに一心に取り組んでいるのに、会への参加者(教師、養教、医師)がとても少ないということです。せっかくの我々岩手郡医師会員の手作りの学会なのだから、より多くの参加者が参加してほしいと考えます。

おらほの先生

おらほの院長のプロフィール

昭和29年1月24日生

岩手郡滝沢村出身

血液型 O型

昭和54年に聖マリアンナ医大卒業

その後岩手医大第3内科に入局

昭和62年10月、零石町に谷藤内科医院を開業

院長はスポーツマンで、剣道（三段）、スキー、ゴルフ等（腕前不詳）をしますが、時々怪我をするのがたまにきず。でも剣道でアキレス腱を切った時には、数日休んだだけで、ギブスをしながら診療を頑張り通した根性の持ち主です。しかし今は、奥様の話によれば、「この頃は、スポーツはほとんどやらず、もっぱら子供達を連れてのドライブや温泉巡りですよ。」とのことでした。

院長は、今年、数え42歳の大厄であり、昨年の前厄には諸事情による病棟閉鎖や、御父様の死去が重なり、かなり落ち込んでいました。また大厄年の今年は、2月～3月にかけて風邪が大流行し、先生自身も「具合悪りー、具合悪りー」と言いながら、どうにかこうにか持ちこたえています。でもあまり無理せず頑張って欲しいと思っています。

私達職員から見た院長の性格は、思い付いたらすぐ実行（不言、有言どちらも）し、

零石町 谷藤内科医院の巻

公私に渡るいろいろな予定や諸行事日程を忘れないようにカレンダーに記入するなど、几帳面な性格です。

診察中の院長は、特にお年寄りの患者さんに対しては、地元特有の方言などで優しく話しかけ、また家族の協力が必要な患者さんに対しては、家族の人と日付時間を持ち合わせし、家族と患者さんを交えて治療説明や協力内容を説明したりしています。

私達職員に対しては、常日頃から、「みんなで声をかけ合い、患者さんに何時も笑顔で接する様に」と言われています。

最後に、院長は、いろいろと御忙しい日々が続いておりますが、患者さんのため、家族のため、私達職員のため、そして御自身のため、くれぐれも健康に留意してこれからも頑張っていただきたいと思っております。

谷藤内科医院職員一同



谷藤一生先生

隨 想

たにいそぎ

平石町 高橋 孝

朝カーテンを開けたら、眩しいくらいの雪の光が飛び込んできた、「アア肥引きの頃だなあ」と一人つぶやいた。豪雪地帯の「ほっと湯田」の農家で19歳まで過ごした。昭和39年には降雪量22メートル15センチも降ったと言う。しかし3月中旬になると、日中気温が上がり、朝冷え込むと雪の表面の水滴が凍り、太陽の光に乱反射してキラキラと雪が七色に美しく輝く。堅雪になったのだ。人が乗っても跳びはねても雪の中に沈まない位堅くなる。昼も長くなり、雪囲いから日が射し込んで、雪国の人達が最も春の近いことを肌に感じる自然現象である。今のように、農耕用の車両もなく、運搬は人の背か、堅雪の時期を利用して櫛で運んだ。化学肥料もなく主に堆肥が田圃の肥料であった。此の頃になると田圃の畦も陰の様に見えてくる。畦の交差した所に直径1メートル50センチ、深さも同じ位の穴を堅雪に掘り、雪を鋳型に角型の木をつけた櫛で堆肥を運び入れて堅く踏み締めて、上に土を敷いて冬の大仕事が終わる。雪が少なくなり田圃のあちこちに堆肥の円筒の塔ができ雪国の風物詩でもあった。この堆肥の上の土に未だ雪が残っているうちにホーレンソウの種を撒き、堆肥の熱を利用して早く収穫した。雪国の生活の知恵だった。堅雪はどこまでも、どこまでも歩いて行く事が出来、田圃の水口や小川の水のチョロ、チョロと流れる音は春の喜びを聞くことが出来た。又小川の辺にネコヤナギや山辺に万作の花を観るともう春です。ネコヤナギは新葉の前に尾状の白銀色の絹色が密生して猫の毛を思わせることからこの名前があ

る。他メンメコ、ポンボコなど色々の名前で呼ばれているようだ。当時は何も花の無い季節なので仏壇に供えたり、赤々と燃える薪ストーブに絹毛を当てて焦がし「三毛猫」等と言って遊んだことを思い出す。万作はネコヤナギと同じで未だ雪が消えないうちに地味だが黄色の花をつける。落葉の低い木で紙を切った様な細長く、少し縮れた花弁各四枚で枝に数個ずつ集まってつく。この花は岩手公園にもあり、テレビでも春到来のニュースになる花だ。万作の名前は「まず咲く」と言うことから出来たと言われこれが定説となっている。地方によっては福寿草のことも万作と言い、万作を木万作、福寿草を草万作と呼んでいる地方もある。長崎県の或る地方で万作を「たにいそぎ」と呼ぶと聞いた。木々が未だ芽も吹かない谷間で急いで一番早く咲く花の意味での呼び名と思うが、「谷急ぎ」と聞いて植物を擬人化したなんと美しい呼び名と驚いている。今は園芸品種もあるが花が大きく可憐さがない。万作は小さく、縮んでひっそりと咲いているのが私共雪国に暮らす者に大きな、大きな春の喜びを伝えてくれると思っている。どの花も茶花に使われ、未だ寒い部屋の床の間にそっと生けられていたらうと思われ、今の様に花の豊富な時代から当時を振り返ると花の価値、人の心を打つ花の美しさも一入だったろうと思われる。冬の夜長に今の様に花の無いころ、もしも白い花として「夜咄し」にネコヤナギが生けられたら、茶人にローソクの灯に白く美しく輝いて見えただろうと往時が偲ばれる。

岩手郡医師会役員会

日 時 平成7年2月16日（木）午後6：00
場 所 盛岡市菜園 割烹千鳥

出席者 高橋（牧） 上田 八角 根本
西島 坂井 佐々木 嶋 上原
篠村 及川 岡本 高橋（克）
佐藤

議 題

1. 岩手郡医師会通常総会開催について（3月11日）於 盛岡グランドホテル
2. 国務大臣防衛庁長官玉沢徳一郎先生の講演会開催について（2月25日 於 県医会館）
3. 第2回生涯教育臨床講座の開催（2月22日 於 県医会館）

4. 阪神大震災への保健医療団の派遣と義援金について
5. 生涯教育について
6. 健康診断実施について
7. 社会保険担当者集団指導について
8. 予防接種について アンケート依頼
9. 災害時救急医療対策要綱の見直しについて
10. 医界風土記－日医ニュース掲載分 全六巻完成
11. 会員動向
12. 岩手郡医師連盟について

『 編 集 』

後 記

●樹々の芽も日一日とふくらみを帶びてくる今日この頃です。弥生3月の卒業シーズンも終わると、引き続いて入学シーズン、社会人の入社式などの行事となり、夢と希望に胸をふくらませ、新たな旅立ちとなる日はとてもうれしそうです。

先日ある小学校の卒業式に久方振りに参加し感動しました。

●3月11日に行われた通常総会では各担当理事の報告に統いて、予算案が承認され、平成7年度がスタートしました。

県医師会の各種行事については、広報紙「いわて医報」に十分目を通してください、多くの行事に多数参加し、生涯教育の実をあげてほしいものと思います。

●総会の特別講演では予定していた元県医師会長三浦新也先生があいにく体調を悪くされ来られず栗原耿先生だけの講演となつた。「モンゴルを旅して」については、出発の目的から現地での様子など数多くのスライド写真を用いて解説され、よほど「羊の肉」が食卓に出たのでしょうか、かなりうんざりされた様子が窺がれました。貴重な体験の一端を知ることが出来参考になりました。どうもありがとうございました。

●県民健康講座は本年度は零石町で開催され、1月25日、2月1日、2月8日と3回とも約150名前後の参会者で大変盛会で

あったようです。この零石町での最終回に参加された高橋会長は、他の会場と違って出席者の年令層が若いせいか講演が終わってもまたぜひ私の部落でお話しあるいしますと懇願されたという。大変な熱気に圧倒されたと感動していました。

また、ここで「育児イロハ」についてお話しをされた上原先生は、同名の小冊子（A4判）を刊行されました。挿絵を担当された谷地さんは地元出身で小さいときからの患者さんで岩手大学で美術を専攻されている方とのことです。大変な労作だと思います。

●「おらほの先生」には零石町の谷藤先生に登場していただきました。ステキなカットどうもありがとうございます。

●高橋孝先生の「たにいそぎ」については、最初どんな意味なのかわからなかったが、時季に合った地方ことばとわかり、土地、土地でいろんな呼び方をしていておもしろいものですね。

●1月17日深夜の直下型地震といわれる阪神大震災は火災も伴つたため大惨事となりました。未だ被災された方の避難所生活の方々も多数おられるとのこと、一日も早い復興を願わざにはおられません。

(M・S記)